

広島大学病院 エイズ医療対策室 内線5351
中四国エイズセンターホームページ URL:www.aids-chushi.or.jp

◆「第四回中国四国地方HIV陽性者の歯科診療体制構築のための研究会議」に参加して

歯周診療科 歯科医師 松田真司

2013年11月17日(日)、第4回中国四国地方HIV陽性者の歯科診療体制構築のための研究会議が、広島大学歯学部講義室で開催されました。中国・四国地方の計22の施設と県歯科医師会から合計50名の歯科医師・歯科衛生士が参加されました。



この会議は中国、四国地方のブロック拠点病院である広島大学病院主催で、中核拠点病院及び、県歯科医師会の歯科医師、歯科衛生士を対象として行われました。HIV及びAIDSに対する知識を深め、またそれぞれの拠点病院、県歯科医師会のHIV陽性者に対する歯科診療の現状や問題点等を報告し、今後の課題等を話し合うことで、中国四国地方のHIV陽性者の歯科医療体制の構築を目的とした会議です。

会議のプログラムを下記に示します。

《第4回中国四国地方HIV陽性者の歯科診療体制構築のための研究会議日程表》

平成25年11月17日(日)広島大学歯学部B棟6講義室
総合司会:藤井輝久
(広島大学病院 エイズ医療対策室長)

開会挨拶
(広島大学病院 エイズ医療対策室長 藤井輝久)

講演1「HIV感染症の現状と展望」
照屋 勝治先生(国立国際医療研究センター病院)

講演2「北海道HIV/AIDS歯科医療ネットワーク構築事業の概要」
佐藤 淳先生(北海道大学 大学院歯学研究科)

話題提供「病院外の歯科開業医とのネットワーク構築について—九州医療センター 歯科口腔外科での取り組み—」
吉川 博政先生(国立病院機構九州医療センター 歯科口腔外科)

会議議題「中国四国ブロックにおけるHIV陽性者の歯科医療体制構築について」
司会:栗原 英見(広島大学病院 主席副病院長)

開会挨拶(広島大学病院 主席副病院長 栗原英見先生)

開会の挨拶を広島大学病院輸血部・エイズ医療対策室長の藤井輝久先生にさせていただき、午前中は二つの講演が行われました。



エイズ医療対策室長の藤井先生

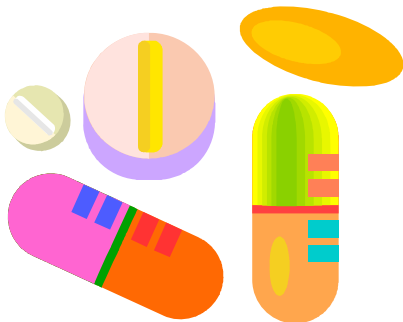
(次のページへ続く)

講演1は国立国際医療研究センター病院、エイズ治療研究開発センターの照屋勝治先生による「HIV感染症の現状と展望」という題目で、HIV感染症の治療の過去から現在に至るまで、また治療薬の副作用の話、そして未来のHIVの治療について話をいただきました。



国立国際医療研究センター病院の照屋先生

HIV治療薬が開発された当初は、一日、20種類近くの治療薬を服用しなければならず、副作用も強いものですが、現在使用されている治療薬は一日一錠、さらに副作用も少ないものに改善されてきているという話をされました。



しかし、近年HIV感染症の病態に関する理解が変化してきており、それは、単に細胞性免疫不全疾患ではなく、虚血性心疾患や悪性腫瘍のリスク因子であるということです。HIV感染症は治療できる疾患になりつつあるが、慢性炎症性疾患や悪性腫瘍になる確率が非感染者と比較して上がるため、当然のことですが、予防を徹底しなくてはならないということでした。

さらに、未来の治療では、三ヶ月に一度の筋肉注射でよいものまで開発されているとのこと。患者の負担を改善し、薬剤の管理を医療者ができるという理想的なものであるとのことでした。

しかし、safer sexの減少など危惧される問題はまだまだあるようです。照屋先生のご講演のあと、質疑応答の時間で、参加者から「HIV陽性者の歯科診療に、消極的になってしまうのだが」という質問がありました。その答

えとして、照屋先生はHIVの感染力がとても弱いこと、治療を行っている患者はウィルスの数が少ないこと、さらには唾液中のHIVには感染力が失われていることなどから、ユニバーサルプリコーションを行うことで十分に対策ができるというお話をされました。

このことは歯科診療体制を構築するために、拠点病院や歯科医師会の先生方だけでなく、地域の歯科医師にも知っていただく必要があると感じました。先生のお話は面白く、わかりやすく、また情熱的にお話していただき、私を含め、参加者全員、HIV感染症に対する理解が深まり、とても勉強になったと感じました。



二人目のご講演は北海道大学の佐藤淳先生にブロック拠点病院として、これまでのネットワークの構築の活動や、ネットワークの現状、また大学での教育等についてお話していただきました。



北海道大学の佐藤先生

特に広い範囲の北海道でのネットワーク作りで苦労された点や、どのように地域の歯科医師に理解していただくかということをお話されました。中国四国地方でHIV陽性者の歯科治療のネットワーク作り、歯科治療の取り組みを積極的にすることを後押ししてくれるお話しであったと感じました。まだまだHIVに対する地域の歯科医院の認識は低く、偏見もあるようでした。

しかし、スタンダードプリコーションを行うことで感染予防は可能であり、むしろHCVやHBVと比較すると感染力は弱いものです。今後スタンダードプリコーションを徹底することは、安全な歯科治療を患者に提供するためには必要不可欠だと思いました。

午後は九州医療センター歯科口腔外科の吉川博政先生に「病院外の歯科開業医とのネットワーク構築について-九州医療センター歯科口腔外科での取り組み-」という題でお話していただきました。



九州医療センターの吉川先生

吉川先生には九州ブロック拠点病院として、福岡県でどのようにネットワークを広げたかというお話をしていただきました。その中で万が一針刺しなどの血液暴露が起きてしまった場合などの対策をお話していただきました。患者を医療センターから紹介する際に予防として抗ウイルス薬を貸し出すという対策をされているとのことでした。

広島県ではネットワークの歯科医院に対し、針刺しの際のフローチャートを作成し、それに沿って病院を受診するなどの対応をしています。スタンダードプリコーションで予防対策は可能ですが、このようなシステムが確立されていることは医療従事者として安心できます。



吉川先生から最後に、「スタンダードプリコーションを行うことで、HIV陽性者に対する歯科治療というだけでなく、歯科医療全体の質を向上させましょう！」というお言葉をいただきました。先生の言われるように歯科医療のこういった取り組みをHIV陽性患者だけでなく、歯科にかかる患者、さらには国民に発信することで歯科医療をよりよいものにできるのではないのでしょうか。

吉川先生のご講演のあと、広島大学病院主席副院長の栗原英見先生の司会の下、中国・四国地方各県の

HIV陽性患者に対する現状、問題点、前回の会議からの改善点を報告していただきました。



主席副院長の栗原先生

広島県歯科医師会、三反田孝専務理事には広島県の取り組みと現状を報告していただきました。



広島県歯科医師会の三反田先生

中国地方の一つの県として、どのようにネットワークを広げたかという点に関しては、同じ地方の県の参加者に参考になったのではないかと思います。各県の報告ではまだまだ改善する点や問題点はあるようでしたが、積極的に取り組みを行っている県もあり、活発な会議であったと感じました。

最後に栗原先生の挨拶で閉会となりました。朝早くから夕方までの会議でしたが、どのご講演もすごく興味深く、会議も活発に行われ、HIV感染症に対する知識だけでなく、日常の臨床の中での感染予防対策などすごく勉強になるものでした。

今回の会議で、スタンダードプリコーションを行うことで、患者だけでなく、歯科医師やメディカルスタッフにも安全な歯科医療を提供することができることを再認識しました。このようなHIVや感染予防に対する知識を歯科医療従事者が正しく理解すれば、ネットワーク構築もより広がると感じました。このたびの会議に参加して、私自身の歯科診療をより向上させ、さらに今後HIV陽性者のためのネットワーク構築に力になれるよう心がけたいと思いを新たにしました。

◆ご案内◆

『HIV検査について Ver.6』と
『HIV検査の勧め方 告知の仕方 Ver.4』を発行しました。

HIV検査について
～HIV感染のリスク
を考えて検査を行う
医療者のための
ガイドブック～
Ver.6

発行：厚生労働科学研
究費補助金エイズ対策
研究事業「HIV感染症の
医療体制の整備に関す
る研究班」

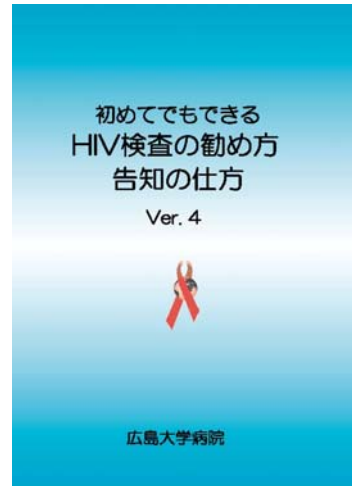
エイズ発病で入院して、初めてHIV感染に気づく例が各地で増えています。“いきなりエイズ”と呼ばれています。HIVに感染していたのに、ご本人も、それまでかかった医療者も気づかなかったのです。

新規来院者の病歴を聞いていると「あの時わけがわからない熱が出た」とか「伝染性単核球症と言われた」など、急性HIV感染を思わせる症状で医療機関を受診したと言う人が増えているようです。HIV感染症を疑うべき状態があるのに見逃してしまったと考えられます。

HIV感染症の治療はここ10年間で格段に進歩しました。エイズ発病前に見つかれば発病しない状態を長く維持することができます。糖尿病やC型肝炎のような慢性疾患に似てきました。このため検査はより積極的に進められる時代になってきたと言えます。他の人への感染も少なくさせることができるでしょう。

昔に比べて多くの医療者が癌の告知に積極的になりました。同じようにHIV検査の勧めも知識と技術そして“慣れ”が必要です。このガイドブックは医療者がHIV検査を勧める時に役立て欲しいと願って作りました。陽性者が診断されたら遠慮なく専門家に繋いでください。

ご利用になった感想やご意見をお待ちしています。



初めてでもできる
HIV検査の勧め方
告知の仕方
Ver.4

発行：厚生労働科学研
究費補助金エイズ対策
研究事業「HIV感染症の
医療体制の整備に関す
る研究班」

中国・四国地方では、今でも多くの方が新規感染者として診断されています。最近の傾向としては、若干年齢の高い層で感染が確認されるケースが増えています。そういった方々の今までの病歴等を見ると、「あの時、検査をしていれば」「あの時、検査を勧めていれば」といったことがあります。

HIV感染症の早期発見ができれば、エイズ発病を防ぐことができます。現在エイズ発病しても治療して軽快することもしばしばですが、死亡したり後遺症を残すケースもあります。

私たち医療者は感染者がエイズ発病する前に検査することは、医療経済的観点からも有用ですが、最終的には患者・感染者の方から感謝されます。躊躇せずに検査をお勧め下さい。医療者にとってこの小冊子がHIV検査を上手に勧めることができるための良きアニュアルになって頂ければ、幸いです。また内容についても今後さらに改訂していきたいと思しますので、使った感想やご意見をちょうだいできれば、と思います。

広島大学病院 輸血部長・エイズ医療対策室長
藤井 輝久

※この冊子をご希望の方は、エイズ医療対策室
までご遠慮なくご連絡ください。(内線5351)

〈ご意見募集〉

ご意見やご希望がございましたら、エイズ医療対策室（内線5351）までお寄せください。